

薬物療法学

《担当者名》准教授 / 鹿内 浩樹
教授 / 町田 拓自 准教授 / 水野 夏実

【概要】

様々な疾患の病態生理学的背景や臨床経過を理解することは、薬物治療を実践するに当たって極めて重要である。薬物療法学VIでは、臨床に置いて様々な循環器疾患に対する適切な薬物治療を実践するために、一般的な心血管疾患と循環器関連治療薬、利尿薬などの循環系に関わりの深い疾患について、その病因・病態を理解し、関連する薬物の薬理作用や薬物治療の理論的背景と合理的な医薬品の使用方法を学ぶ。

【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な循環器関連疾患・病態について列挙し、その病因・病態を理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	循環器関連薬理学	<p>循環器に関連する様々な自律神経系受容体や作動薬、阻害薬について、薬理学観点から総括できる。 アドレナリン作動薬の基礎構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を説明できる。 平滑筋の収縮、弛緩における細胞内情報伝達機構を説明できる。 平滑筋弛緩薬を分類し、代表的薬物の薬理作用、作用機序、臨床応用を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-2 1, 2) C-7-7 1) D-2-1 1~4) D-2-8 1~4)</p>	町田 拓自
2	利尿薬 教科書2 p225 ~ 238	<p>利尿薬の種類を説明できる。 利尿薬の作用機序・副作用を説明できる。 利尿薬の作用・適応について説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-12 1, 2) D-2-13 1~3)</p>	水野 夏実
3) 4	不整脈 抗不整脈薬 教科書1 p143 ~ 155 教科書2 p331 ~ 343	<p>不整脈の発生機序や病態を説明できる。 抗不整脈薬の薬理作用・副作用を説明できる。 不整脈の薬物治療を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-8 1~3) D-2-8 1~4)</p>	鹿内 浩樹
5) 6	虚血性心疾患 虚血性心疾患治療薬 教科書1 p167 ~ 176 教科書2 p343 ~ 349	<p>虚血性心疾患の発生機序や病態を説明できる。 虚血性心疾患治療薬の薬理作用・副作用を説明できる。 虚血性心疾患の薬物治療を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-8 1~3) D-2-8 1~4)</p>	鹿内 浩樹
7	高血圧症 高血圧治療薬 その他の循環器疾患 教科書1 p176 ~ 185	<p>高血圧の発生機序、病態を説明できる。 二次性高血圧の発生機序、病態を説明できる。 高血圧治療薬の薬理作用・副作用を説明できる。 高血圧の薬物治療を説明できる。</p>	鹿内 浩樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	教科書2 p353～369	関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-8 1～3) D-2-8 1～4)	
8	急性心不全 慢性心不全 心不全治療薬 その他の循環器疾患 教科書1 p156～166 教科書2 p316～330	心肥大、心拡大、心筋症、弁膜症、及び心不全の病態、発生機序について簡単に説明できる。 心不全治療薬の薬理作用・副作用を説明できる。 心不全の薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-8 1～3) D-2-8 1～4)	鹿内 浩樹

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

期末定期試験（筆記試験）（100%）により評価する。

【教科書】

1. 「コンパス薬物治療学 改定第2版」原明義、小山進（南江堂）
2. 「パートナー薬理学 改定第4版」栗原順一、田中芳夫、坂本謙司（南江堂）

【参考書】

- 「病気がみえる vol.2 循環器」MEDIC MEDIA
- 「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器」MEDIC MEDIA

【備考】

必要に応じて、補習講義を実施することがある。定期試験範囲には、当該補習講義の内容を含めることもあるので、出席すること。

定期試験対策として「中間試験」または「定期試験対策テスト」またはその両方を実施予定（成績評価対象外）

【学修の準備】

本講義は、1年生で開講された「機能形態学Ⅰ」、さらに2年生で開講された「機能形態学Ⅱ」、「薬理学総論」及び「臨床医学概論」の内容を踏まえて開講される。また、臓器別に解説される「薬物療法学 ～ 」の一部として開講されている。疾患全体を理解する上で他の領域と関連を持つ内容を多く含んでおり、学修範囲が多岐に及ぶため、疑問点を含めて講義内容のしっかりした理解に努めること。

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと（50分）。

復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに（50分）、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと（20分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

C-7 人体の構造と機能及びその調節

C-7-2 神経系

- 1) 神経系を構成する細胞や器官の正常な構造と機能を説明する。
- 2) 神経系による調節の特徴を説明する。

C-7-7 筋系

- 1) 筋系の構造と機能を説明する。

C-7-12 泌尿器系

- 1) 泌尿器系器官の構造と機能を説明する。
- 2) 泌尿器系による体液の恒常性維持への関与を説明する。

C-7-8 循環器系

- 1) 循環器系を構成する器官の構造と機能を説明する。
- 2) 体液循環について説明する。
- 3) 血液の組成と各成分の機能について説明する。

C-7-12 泌尿器系

- 1) 泌尿器系器官の構造と機能を説明する。
- 2) 泌尿器系による体液の恒常性維持への関与を説明する。

D-2 薬物治療につながる薬理・病態

D-2-1 自律神経系に作用する薬

- 1)自律神経系の異常による病態の発症メカニズムを、生体の恒常性と関連付けて説明する。
- 2)自律神経系に作用する薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3)治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4)同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-8 循環器系の疾患と治療薬

- 1)循環器系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2)治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3)治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。
- 4)疾患治療における薬物治療の一般的な位置づけ及び同種・同効薬の類似点と相違点を把握し、疾患へ適用する根拠を説明する。

D-2-13 泌尿器系の疾患と治療薬

- 1)泌尿器系疾患の発症メカニズムを生体の恒常性と関連付けた上で、異常反応としての病態を説明する。
- 2)治療薬の作用メカニズムと病態を関連付けて説明する。
- 3)治療薬の作用メカニズムと有害反応(副作用)を関連付けて説明する。

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

鹿内 浩樹(薬剤師)、町田 拓自(薬剤師)、水野 夏実(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床に即した薬物療法学の講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している